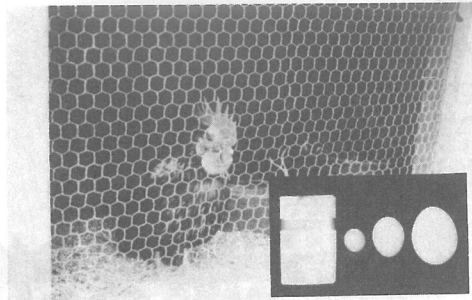


地域の話題

ちっちゃな卵からどんなひなが…

高木道夫さん、(東町3)が飼っているチャボが、直径2センチメートル、長さ2.5センチメートルの小さな卵を産みました。

このチャボは、一日置き位に卵を産んでいるそうですが、「こんなに小さな卵は、はじめて！」と、届けてくださいました。今、チャボご夫婦は、7つの卵を抱いて、ひなのかえ



ひなを待つチャボ 卵 (左から話題の卵・チャボのふつうの卵・にわたりの卵)

るのを待っています。

この卵がかえった時は、いったいどんなひなが…

喫茶『グローバー』オープン



おまたせしました どうぞ召し上がれ

坂田池畔の養護老人ホーム(植松憲一所長)内に、粋な喫茶室が誕生しました。

やすらぎ喫茶「グローバー」と名付けられ、コーヒーや紅茶、レモンティーなどが用意されていますが、何を飲んでも無料、入所者が自主運営しているところが見事です。

公民館クラブ紹介 ②

好指導で上達も急

民謡クラブ

中央公民館開設直後の成人学級受講生によって結成された歴史のあるクラブですが、20年の歳月を得た今、会員の顔ぶれも一新して、当時とは一味違った雰囲気クラブに変貌しています。

青年の面影を残す年代ですが、学生時代しっかりとした基礎教育を受けているだけに、詩の持つ心から発声の仕方まで、黒板を使って丁寧に指導してくれますので、初心者でも理解しやすいと好評です。

発足当時から中心的役割を果たしてきたクラブ長の五木田一さん(遠山)によれば「和気あいあい、のんびり楽しくやっています」とのこと。とは言うものの、民謡は日本人の心のふるさと、近年のふるさとブームの中で、素朴で味わいのある民謡の良さが見直されているときに、会員の皆さんの民謡にかける心意気は回を追うごとに熱を帯びてきているようです。

稽古日は月に2回ですが、次の稽古日までの間は、先生の指導をカセットにおさめ、日課のあい間に復習を重ねていますので、上達の方も順調のようです。



美しい音色にあわせ 歌声がびびく

そうした心配を持つ方は大勢いました。しかし、みんな立派に唄いこなせるようになっていきます。要は、根気良くコツコツと努力さえすれば、誰にでも歌えるということなんです。なお、入会については、現員でかなり一杯の状態だと言うことですが、希望者は問い合わせてみてください。

■練習日時 毎月第2・4日 曜日 午前9時〜12時